3．良食味育種へ期待するもの ～「水稲良食味育種への熱い思い」～

長　内　俊　一*

“熱い思い”の話をするようにとの提案がありましたが，タイトルにあるような“熱い思い”を抱いている方は大勢おられます。たとえば，今月の１月号でしたか岡部四郎さんが思いのたけを述べた記事が載っておりました。前上川農業試験場長の佐々木多喜雄さんは３冊目か４冊目となる「北の稲の品種改良」という本を出しておられる。また，優良米の早期開発では沢山の方が熱い思いを抱いて取り組んでくださいました。ましてこれからやろうとしている方達はもっと熱い思いで頑張ってやられるに違いない。そういう意味からしますと，私など稲の皆さまと辛うじて対話ができる程度でありまして，“熱き思い”の片思いの方でございます。

最初に，皆さまにお礼を申し上げなくてはならない。優良米早期開発の仕事では本当に良い仕事をやっていただいた。これはもう心からお礼を申し上げたいと思います。その延長上で今度の新しい「コシヒカリ」への道，成功を心から期待申し上げたいと思います。

少し申し上げたいのですが，第１期目と第２期目はそれぞれ優良米早期開発の研究成果として資料にまとめられていますが，第１期目の資料はすんなり読めたが，第２期目資料の最後のところに「低アミロース，低蛋白米は良食味のランキングとは関係ない」と載っていたり，「きらら397」まで良い品種にするとそろそろアミロースや低蛋白の選抜が限界である」と，ショッキングな記述があり，これがパートⅡの結論かなと思うと非常に残念だったのですが，昨日の佐藤さん，沼尾さんの話で気苦労にすぎなかったので安心しました。低アミロースのためにダル遺伝子を使った「彩」とか「あやひめ」は粘っておいしいが，白濁するのでは栽培面積が制限されてもやむを得ない。ダルにならない低アミロースが見つかった，追求していくという話です。

小麦のほうでは，「関東107号」という低アミロースの素材が見つかっている。低アミロースは稲の方が先輩で，当時農技研におられた奥野さんに手ほどきを受け，農林番号，関東番号のアミロース含量を総おさらいしたわけです。それまで「チホクコムギ」がずーと低アミロースと思いこんでいたがそれより低い「関東107号」を見つけたわけです。それっとばかりに九州から東北まで一斉に低アミロースの品種改良を始めた。その結果６つの品種ができた。片方の親はすべて「関東107号」を使っている。九州から２つ，作物研から２つ，東北農試と群馬の指定試験地から一つずつ出され，東北農試の材料は「関東107号」に「チホクコムギ」をかけたもので「ネバリゴシ」といい今年の春に生うどんを送っていただいたがおいしかった。作物研のものは13年に育種学会賞をいただいている。ということで立派な仕事をしているが，「関東107号」に該当する稲の系統がないかと少し心配していました。でも，いくつかでてきた。これからは，従来の育種方法の延長線上の仕事で考えられるのでないか。安全性の問題があったが，佐藤さんのマーカーを使っていけばかなり安全にできるのではないか。

誠に簡単ですが，これで私の思い入れの一端を申し上げたこととさせていただきます。健康に気をつけてご成功をお祈りします。

ありがとうございました。

*元上川農業試験場場長　099-1431　常呂郡訓子府町